

子どもの本だな122

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

まいごのアンガス

マージョリー・フラック さく・え
瀬田 貞二 やく (福音館書店)

冬になり、家の中にあきあきした子犬のアンガスは、外へ出かけました。知らない犬と大通りを走り、初めて見たヤギにつつかれそうになり、自動車に吠え…。気がつくと、あたりは夕闇が濃くなっていました。アンガスは家へ帰ろうとしますが、雪が降り、風も吹いてきました。穴の中でじっと一晚過ごし、ようやく夜が明けると、「ガラ、ガラ、カシャ、カシャ」と聞きなれた牛乳屋さんの音。アンガスはその後について一軒一軒まわり、とうとう家にたどりつきました。

好奇心いっぱいのアンガスが、躍動感あふれる絵で元気に描かれています。黄色とオレンジの明るい雪景色が印象的です。読んでもらえば3歳くらいから。(池田)

アラビアン・ナイト

ケイト・D・ウィギン/ノラ・A・スミス 編 坂井 晴彦 訳 (福音館書店)

むかし、ペルシャの王様が、町娘を妃に迎えました。妃は姉たちに妬まれ、生まれた子どもを次々に捨てられました。役人に拾われ大切に育てられた3人の子もたちは、自分たちの暮らす立派な屋敷に「ものいう鳥」と「歌う木」「金色の水」が欠けていることをしります。末の王女はそれがほしくてなりません。妹のために1番上の王子が旅に出ました。みずぼらしい老人に教わったとおり、山上を目指しますが、老人の忠告を忘れ、山の途中で呼び声に振り返ったため、石になってしまいました。次に出かけた2番目の王子も石になりました。男の身なりで旅に出た王女は、どんな声も耳に入らないよう耳に詰め物をし、山を登り、「ものいう鳥」を手に入れました。

王女は「ものいう鳥」の知恵で木と水も手に入れ、兄たちを生き返らせます。3人と王、妃が幸せな結末を迎えるまでを描いた「ものいう鳥と歌う木と金色の水」のほか、『アラビアン・ナイト』のなかから子どもが楽しめる7編を厳選した物語集です。想像をかきたてる美しい版画の挿絵とともに、物語の細部までたっぷりと味わえます。読んでもらえば8歳くらいから。(西村)

< お知らせ >

太子町立図書館開館40周年記念講演会 対談講演会

子どもの一生を支える絵本 ～絵本作りの現場から～

・小風 さちさん

(児童文学作家・翻訳家)

・関根 里江さん

(福音館書店 こどものとも編集長)

・日時:2024年 **2月18日(日)**

・開演:14:00～(13:30 会場)

・会場:丸尾建築あすかホール
中ホール

・定員:250名(要申込/入場無料)

・申込:太子町立図書館

※詳しくは太子町立図書館まで

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

▶×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
(1/10、2/14、2/26は祝日の振替、1/31、2/29は館内整理日)
▶開館時間は10:00～18:00、金曜日は20:00まで開館

『 深海口ボット、南極へ行く 極地探査に挑んだ工学者の700日 』 後藤 慎平 著

太郎次郎社エディタス 253頁 2023年12月刊 1,900円 (請求記号)558.3

「昭和基地近くの湖沼にいる生物を調査したいんだけど、南極用ROV（水中探査機）って作れる？」マリアナ海溝や国内外の深海に自作のROVを潜らせてきたロボット工学者である著者に、知人から相談が舞いこんだ。著者にとって南極は子どもの頃から憧れてきた世界。そこでのロボット開発の依頼を著者は二つ返事で引き受けたが、その前途には様々な困難が待ち構えていた。

南極はこれまで著者が関わってきた深海とはまた違う極限環境で、しかも一度も行ったことがない場所である。そんな南極の湖を潜るROVの開発にはいくつもの課題があった。分厚い氷の下を自由に泳ぎ、小型化・軽量化され、氷点下でも完璧に動作する機材の開発。そのための予算はあまりにも少なく、期間も短かった。しかし、カシオ電気との共同開発により、軽量でコンパクトなサイズながら、体勢が安定しない水中でも正しい方位計測と高い防水性を叶えた日本初の南極用ROVを作ることになった。そして、試運転のために南極まで同行できるといふ。そのために、南極の極地生活を乗り切るための冬山訓練と夏季訓練を受けることになった。さらに、勤務する海洋大学の業務の調整、政府への手続きなどの様々な準備をクリアして、著者は南極用ROVとともに南極観測船「しらせ」に乗り、南極へと向かった。

ロボット工学と南極観測と聞けば、何の関係があるのかと不思議に思う人もいるかもしれない。だが、小型ROVは、湖が厚い氷に覆われていて人間が潜るには危険な湖底であっても、ケーブルを巻き戻せば帰ってくる事ができる。南極のような極限の場所こそ活躍する技術なのだ。調査を進める作者の様子から、ロボット工学者として幼いころから憧れた南極で活動できる喜びが伝わってくる。「日本の南極観測事業を工学の力で発展させたい」という著者の思いに触れ、それに続きたいという学生たちもきつと増えていくだろう。著者は2023年11月から、第65次南極地域観測隊として再び南極を訪れている。今度の調査対象はペンギンだという。続編が楽しみだ。(八木)

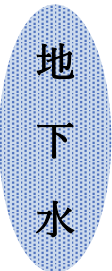
1月	2月	1・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
11日	8日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
18日	15日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田地区 農村交流 センター 16:00~16:20
25日	22日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

＜お知らせ＞

おりがみ教室

- ・Aコース：はらぺこあおむし
- ・Bコース：雪の結晶のつるしかざり
(どちらかのコースを選んでください)
- ・日時：2024年1月28日(日)
10:30~12:00
- ・場所：図書館 読書会室
- ・対象：5歳以上の子ども
(3年生以下は保護者同伴)
- ・申込：太子町立図書館

※詳しくは太子町立図書館まで



部屋の照明をLEDに変え、本が読みやすくなった。取替前の蛍光灯は、点けてしばらくするとひゅんと薄暗くなるので、目のためと早々に本を閉じていた。

昨年秋、図書館玄関前のヤマモモを根元から切ってもらった。館内の照明をLEDにし、館内がオレンジ色になったときも、耐震補強のために書架をパイプでつないだときも、声をかけられることがなかった。誰も気づかないのかなと、不思議だった。でも、ヤマモモはちがった。「表のヤマモモ、切ったの？」の声に、驚きと残念さを感じる。時期になると小粒の実をどっさりつけ、鳥がついばむ。図書館で働き始めたころ、ジュースにするという利用者にならって、持ち帰ったことがある。ペットボトルに詰め、下宿している従兄弟に送ると、「すごいな、お酒が造れるなんて」という感想が返ってきた。うまい具合に発酵していたようだ。熟して落ちた実は、ゴミ袋に半分も入れるとずっしり重い。掃いても掃いても実を落とすので、珍しさが過ぎると、厄介者として見ていた。

ヤマモモがなくなり、残念そうな声と同時に、「館内が明るくなった。」という声も。夏の日差しは強烈だろうが、冬場は明るく、暖かく過ごせるだろう。ゆつくりと本を楽しんでほしい。
(竹内)